

ルポ 農業にアタックしたら本当に好きになつた!

中尾優子さん

●初心者だからよく見える

中尾優子さん（三三）はミカン農家の浩道さんと結婚して六年。医療事務をしていた優子さんが嫁いで一番に感じたことは、「家計と農業経営の財布が一つになっているため、我が家が幾らで生活しているのが全く見えないという戸惑い」。そこで、家計と経営を分け、青色申告制度を取り入れました。今年で五年目。今はパソコンに挑戦中です。

「正確な経営状態の把握と長期計画を立てるために役立ち、とても楽しい時間です」と中尾さん。



休暇を利用して富山へ旅行の中尾夫妻

●農業初心者だから見えることも

「イチゴは手が掛かる」と最初は反対されたが、やっと家族のOKが出てスタート。「技術的にはまだだだけど、自分で言い出したからやりがいはある」と奮闘中です。

●経理も作付けのこと

「農業初心者だから見えることもある」と中尾さんは言います。彼女のアイデアを受け入れてくれる夫をはじめとした家族の寛容さにも感謝しています。



●充実した余暇

中尾さんの住む三角町郡浦地区は第一・第三日曜日が農休日です。休みを利用しての、中尾さん夫妻の一冊の楽しみは近所の人たちとの旅行で、昨年は富山へも出掛けたそうです。他にも、夫婦でミニバレーをしたり、若妻会の初代会長を務め、リサイクルのバザーや他産地の見学を企画するなど、余暇もなかなか充実しているよ



夫の浩道さん、経営は優子さん。経営方針は二人三脚です。「規模拡大よりも集約的経営で収益を上げていきたい」と頼もし答えが戻っていました。

●近いうちに英会話のレッスンにも挑戦してみたい

「最近、イチゴの夜冷育苗栽培を取り戻しましたが、今後は電照栽培にも挑戦してみたい」と中尾さん。

●経営者としての夢

今後の経営課題は、「最近、イチゴの夜冷育苗栽培を取り戻しましたが、今後は電照栽培にも挑戦してみたい」と中尾さん。



休暇を利用して富山へ旅行の中尾夫妻

ゆとりと魅力ある農業・農村をめざして

●県農業計画策定

県では、農業や農村を取り巻く大きな環境の変化に対応するため、今春、県総合計画により具体化した農業計画を策定しました。計画は、①他産業などの所得とゆとりを確保できるような生産性の高い自立経営体の育成、②本県の特性を生かした多彩な農業生産の

展開による我が国の食料供給基地としての体制の強化、③地域の実態に即した基盤整備や農村の生活環境整備などを推進し、「ゆとりと魅力ある農業・農村」をつくることをめざしています。

「ゆとりある経営」とは経済的、肉体的、時間的余裕から生まれてくるものです。こうしたことから、農業計画では、他産業並みの就業時間で他産業並みの所得を確保できる「自立経営体」を育成することにしています。「自立経営体」の目標は「農業従事者」（三人で年間農業所得一千円、総労働時間四千時間）です。

このためにはまず、古田さんのように自ら経営計画を策定し、その実現に向かって創意工夫しながら、自主的な取り組みができるよう、優れた技術力や経営感覚を持つた経営者を育成していきます。

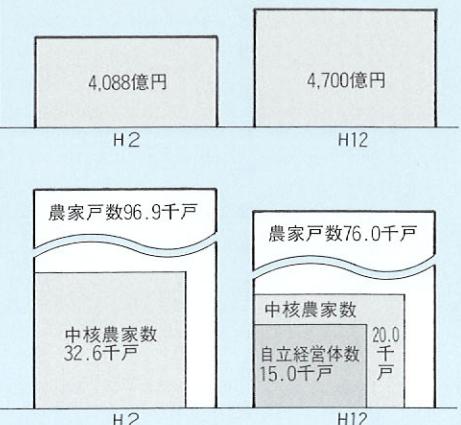
県では、新たに「経営体育成推進室」を設置し、市町村、農業団体などを連携しながら、自立経営体をめざす農家などを積極的に支援することとしています。

●未来に向かつて

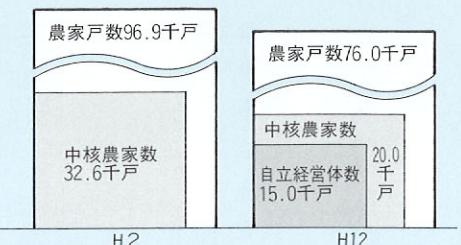
これらの取り組みなどを通して、二十一世紀に向け、若者や女性が誇りや生きがいを持って取り組めるような魅力ある農業の確立に努めます。



農業生産額の見通し



農家及び労働力の見通し



2) 世紀には農家戸数は22%減少しますが、粗生産額は15%増加すると予想されます。これには、生産性の高い「自立経営体」の育成が重要な鍵となります。